

安心ハート手帳

(急性心筋梗塞医療連携パス)

運用の手引き

令和8年4月

香川県

○ 目的

「安心ハート手帳」(以下「連携パス」という。)は、香川県の急性心筋梗塞の冠動脈疾患治療後患者の治療経過を急性期病院と地域のかかりつけ医が共有し、より連携を密にすることにより、医療の質の向上と患者の予後の改善を目的としています。



○ 「連携パス」の適応症例

□ 急性心筋梗塞

(ただし、不安定狭心症等により PCI を施行した症例も、主治医の判断でご活用いただくことが可能です。その際、「連携パス」の各管理目標は、急性心筋梗塞に合わせて設定していますので、必要に応じて見直しを行ってください。)

○ 「連携パス」の適応期間

◇急性心筋梗塞、狭心症の冠動脈疾患治療後ともに、発症から1年間です。

◇ただし、主治医(急性期病院・かかりつけ医療機関)や患者の希望により、引き続き、ご使用いただくことも可能です。

※「連携パス」の適応期間終了後においても、必要に応じて、連携ツールとして継続使用していただき、患者の再発予防にお役立てください。

○ 「連携パス」の運用

【急性期病院】

- ・ 退院時に患者さんに、患者向け冊子「冠動脈疾患」と、「連携パス」を手渡します。
- ・ その際、かかりつけ医療機関での受診時や自院での再診時に、「連携パス」をご持参いただくよう、患者さんにお伝えします。

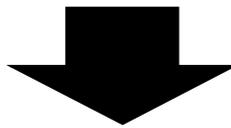


◇運用例



【急性期病院】

- ① 急性心筋梗塞の急性期治療を行う。
- ② 「連携パス」等を用いて退院を目指す。また、急性期心臓リハビリテーションも開始する。
- ③ 主治医は、「安心ハート手帳」の『連携パス計画書(P.5)』を用いて説明する。
- ④ 主治医は、退院までに『急性期病院→かかりつけ医療機関への情報(1) 急性期病院での治療記録(P.7)』の記載をする。
- ⑤ 『運動処方せん(P.10)』は、可能な場合は医師・理学療法士・看護師が記載する。



【かかりつけ医療機関】

- ① 診察時は、『急性期病院での治療記録(P.7)』と『運動処方せん(P.10)』、お薬手帳等を確認し、運動指導の参考にする。
- ② 『心筋梗塞後の症状や動脈硬化リスク因子の管理目標(P.11)』や『あなたの日々の健康状態の記録(P.17～)』を参考に治療や健康管理指導を行う。

○「連携パス」の運用状況アンケート

◇「連携パス」を今後よりよいものとしていくため、定期的にアンケートを実施しますので、その際にはどうぞよろしくお願いいたします。

【連絡先】

香川県急性心筋梗塞地域連携協議会事務局
(香川県健康福祉部医療政策課 医療企画グループ)
高松市番町四丁目1番10号
TEL:087-832-3319
FAX:087-806-0248